

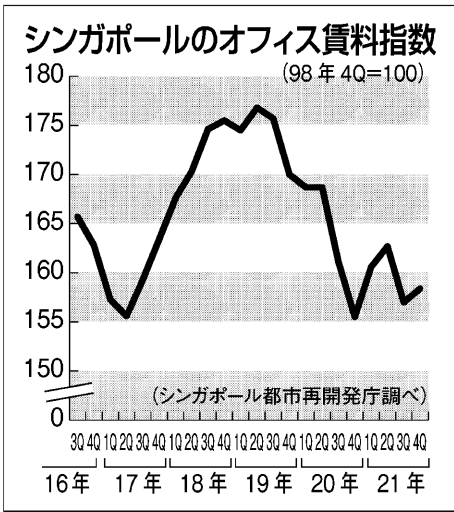
不動産事業アジア参入

S M F L シンガポール社と連携

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は、子会社を通じてアジア・太平洋地域での不動産事業に乗り出す。シンガポールの不動産運用大手のARAアセットマネジメントと連携する。物価上昇などによる賃料の上昇を見越し、シンガポールや豪州を中心に先行投資する。2027年をめどに海外不動産資産を1000億円規模に育てる。最大市場の米国に本格進出する足がかりにする。

27年めど1000億円規模

三井住友ファイナンス&リース(東京都千代田区)が手がける。金利上昇や経済成長が見込まれるシンガポール



投資したシンガポール中心部のオフィスビル

をはじめ、アジア・太が、足元は上昇傾向に平洋市場に参入する。ある。まずはARAアセットマネジメントと、SMFL系列の不動産ファンド大手・ケネディクス(URA)の調べでは、オフィス賃料指数はコロナ禍により17年の水準に落ち込んだ

し、投資額は3社で合計3億シンガポールドル(約250億円)。月内に契約する。SMFLみらいが9割を引き受け、同社としては大型の出資となる。

当面、同規模の投資を毎年行つて資産を積み上げていく。海外投資家にとって投資環境が整った豪州でもオフィスや商業・物流施設、住居などに投資していく。いずれもARAの事業基盤を活用できる地域だ。

さらにシンガポールや豪州での連携成果を生かし、長期展望として北米の不動産事業を本格化する。東南アジアと同じくオフィスや住居、物流施設を中心に投資していく。SMFLみらいは、21年1月に当時ARA傘下だったケネディクスを買収したのを機に同社と関係を深めてきた。ARAへは三井住友銀行が21年半ばに出資している。